

四門砲門は在り二十四ポント二門十二ポンスト二門砲門ニ  
在り総計十二門あり機械精微の細工あり合衆國海軍所の  
機械方の今ハ帝國日本海軍所の機械方の長よりセスイ  
ゲイの検査ニ而ゼームスマールフライ組よよつて打建たり  
四十インチノシリントル廿八インチ半のヒストンニ而組  
建たる機械二組あり總ハ直ク十一フート斜經十八フート  
なり

右船マルテン釜二ツドンキ一釜一ツあり大釜ハ四ヶ所の  
火焼所ドンキ一釜ハ壹ヶ所の火焼處あり右火焼處百七十  
五フートの綱の表面ニ一ト都合五千八百フートの表面あ  
り右船の一ミニュートの間ニ欽折木ノ清水一ガロンを製  
造機械あり

石炭入れハ三百噸を積容るヘー蒸氣を立るヨ一日毎ニ八  
噸より十噸を洗おやすヘー去十月運轉試之節賞歎セヘキ  
運動をあして人をして満足せ一光年右船千八百六十四  
年第十一月の始ニニユーヨルクより出帆セヘキ答之處英  
國政府より帝國日本國內ニて隙起りある故ニ右船の開  
帆を止めたり合衆國政府も右船の開帆を許さず我國の戰  
争も日本海ニ於て英國の戰争も果たれハフシャマ開帆一  
たれ英國其外他國の止を防ぐヘー

## 役人名前目録

船長

フレンクリンハレット

賄方

ジョースエフゼーコムストック

一等士官

チャルレスハレット

二等士官

アルビーマルクローリン

三等士官

ベルナルドパロルト

大砲方

ワレンハレット

ボーットスウェインペールビーハッキン

小船綱具帆碇等ヲ支配する官

木匠

ジョンライラエット

機械方の長

ジヨンエスロビンソン

機械方助役

ゴスタウニスワンドルウェントル

機械方助役

トマスグラント

士官の惣數ハ日本海軍長官に右之船を引渡セ後合衆國ニ

歸るヘ一機械方の内二三人ハ同船多分残りもやせん

文久二壬戌年我カ政府軍艦三艘ノ購入ヲ合衆國公使ニ依頼  
 セシニ折節同國ハ南北戦争ノ最中ニテ急遽其需ニ應シカタ  
 キ旨回答アリ因テ軍艦一隻ノ製造ヲ和蘭ニ托シ最前諸術研  
 究ノ爲メ亞國へ遣スヘキ旨ヲ命シタリシ留學生内田恒次郎  
 等ヲ此度振替ヘ和蘭國へ派遣スヘキニ決セリ然ルニ向キニ  
 亞國へ托シタル軍艦モ彼國ノ戰争片付次第差送ル可キ約束  
 ナリシカ故後二年ヲ經テ慶應元丑年十二月彼國ヨリ富士山  
 艦ヲ差送レリ然レトモ最初二艘ノ軍艦ヲ注文セシ時其費用  
 トシテ六十万弗ヲ渡シ置キタリシニ由リ今度富士山艦ノ代  
 價其餘乗組人ノ給料及ヒ航海ノ諸入費ヲ差引算計スルモ猶

幾許ノ餘贏アルカ故右等諸勘定ノ引合トシテ同年十一月廿五日軍艦奉行藤澤志摩守亞國公使ニ對話左ノ如シ

一應挨拶畢而

一富士山乗組士官給分其外之儀ハ兼而申立候船持渡入費之内ニ一同ニモリ居候哉今一應曉と承知以た一度候

一最前申立高八十万弗之内六十万弗御渡相成右之内

日本渡海之人費ハ見込無之候

一昨日被差越候勘定書之内五千六百五弗仕分け渡方取計有之趣船持渡入用之内へ相加候義と存候

一固より左様ニ候尤一ヶ月ニ付何程ツ、之拂方ニ候哉ハ相分り不申候

一兼而申立之内旅費之義ハ三十万弗餘と有之右ハ三艘分

之合高ニ而可有之左候ハ、一艘あれハ右之三分一相渡可然事と存候

一此儀者ブラー・エンハ心得居可申候得共自分ハ心得不申志ウレ引繼之書付之内ニ可有之候間篤と取調候ハ、相分可申と存候

一三十万弗餘渡過之分日本政府ヘ御取戻レ之譯ニ相成候上者右返納可致弗之内ニ而富士山着之上乗組士官旅費等差引残之分返却可有之哉

一此儀者自分ニ者取計出來不申其譯者ブラー・エン所持ニ而同人之外扱ひ候者無之候

一昨日被申聞候處ニ而者此度渡來之富士山并積込之武器價等差引残金差戻レ勝手レ出來候趣ニ承り候處今又被

申聞候趣ニ而者差引返却方取計出來ウタキ様ニ相聞ヘ  
候

一此事ニ付而者甚おもいろうち事ニ而弗之事ハ一切取扱不申志うト富士山相廻り候節者夫々勘定之上プラークニ之取次丈者可致候

一プラークニ之外公使之權ニ而弗返却方ハ難行屆候哉右書通摸通り候上プラークより申越次第如何とも取計出來可申且亦弗返納方之義決定いたし候得ハ今より六ヶ月も相懸り候ハ、相辨可申富士山一艘ニ而貳拾四五万弗相掛り候義ニ付受取過之分返納者當然ニ候得共若プラーク方ニ而材木其外跡

船御誂之見込ニ而買上有之候ハ、如何可有之哉其義無之候ハ、直ニ取戻一方出來可申又富士山渡來之上彌よろしき船ニ候ハ、尙同様御誂相成候様以た一度候

又弗を御取戻一の上若外へ御誂有之候而者苦情云々又返納可致餘りの弗ニ而尙貳艘程者求め方出來可申と存候

一跡御注文之事歟又ハ弗ニ而取戻一候歟之義者老中に申立候上尙引合可申候

一只是ハ御含ニ申上候迄ニ御座候

一富士山船に五十人程乗組亞國より皇國內海迄渡航之惣入用凡何程相掛り可申哉

一士官之入費凡一万六千弗程石炭入用大凡八千弗程  
と存候是ハ一日八弗之積ニ而千トン之見込尤大凡  
積リニ有之候

且又御渡過之弗を御取戻相成候上ハ譯もあき事ある  
うち尙御誂ニも相成候ハ、是迄之懇切之意も相貫  
往々諸事御都合も可宣候  
一委細承知以たレ候いづれ老中に具ニ申立置可申候  
一當地ニ亞國之大工有之此者ニ申付御誂船等出來候  
ハ、尙更御用辨可宣と存候且右様相成候ハ日本之  
人修行ふも相成可申旁可然と存候  
一一つれも廉々老中に申立候上品ニ寄富士山渡來以前又  
及引合候義可有之も難斗吳々突如之面接謝入候

右畢而退去

其後慶應三年正月小野友五郎ヲ委員トシテ亞國へ遣シ再ヒ  
鋼鐵艦ノ購入ヲ倚頼セシカ同四辰年四月二日其艦横濱ニ來  
着ス然ルニ當時幕府顛覆ノ際ニ會シ外人局外中立ノ時ナル  
ヲ以テ亞國ノ旗章ヲ撤セス後コレヲ  
朝廷ニ納レ東艦ト改稱セラル、者即是ナリ

文久二戌年中

勘定奉行小栗上野介曾テ在横濱亞米利加國公使ブラインヘ  
軍艦三艘購入之儀ヲ約シ置キタリシカ數年ヲ經テ唯富士山  
艦壹艘西暦一千八百六十六年ヲ彼方ヨリ送付セル而已夫ヨリ  
前記手附金内渡八十萬弗之處残り金圓其儘ニテ在リシニ付

右爲結算勘定吟味役小野友五郎并軍艦組岩田平作小笠原賢藏同行慶應三卯年正月廿三日品海出船二月十六日米國桑港ニ着シ華聖頓府ニ至リ「ヲコシデント」旅館ノ名ニ寓シ居リ同國政府へ談判之末富士山艦代價諸雜費共計算受渡濟ノ上其殘金ニ利子ヲ添フルト且紙幣ト正貨ト之差ニテ數十萬弗之殘餘金額有ルニ由リ裝鐵ストーンヲール船ヲ購收シ其他諸費ニ至ルマテ總テ差引猶十萬弗許ノ餘リアル故スペンセル砲等ヲ買求ム因テ彼方ニ渡過ニ成リ居タル殘金之分ハ此時ニ盡ク受戻シタリ此事畢リ友五郎ハ飛脚船ニテストーンオール船渡來之前ニ歸朝セリ平作賢藏兩人ニハ同船ニ乘組慶應四辰年四月歸着セリ

本文金圓差額ノ生セシハ最初渡シタル總貸八十万弗ナレ

凡彼國ニ於テ時相場ノ違ヒ即チ紙幣正貨ノ差及ヒ利金等ニテ大約四十萬弗ヲ增加シタル由

松平修理大夫家來差出候書付

長崎御製鐵所蒸氣之御船去ル亥年拜借仕候處機械折損一大坂表より長崎ニ爲修復差廻り候折長州沖ニ而長府臺場より不法之及砲發右御船致燒失其段ハ則御届申上候通ニ而其後右次第爲尋問長府ニ使者差遣可申旨其砌御上洛中ニ付於京都及御届候處長州不法之義ニ付而ハ從公邊御所置被遊候間決而取止輕舉之振舞無之様可仕尤右御船之義ニ付心配致間敷御丁寧之御沙汰之趣有之無據其儘罷在候處其後御征伐迄も被仰出尋問之義も相調不申御船燒失ニ付乗組人數も士官始數十人死亡甚以迷惑之次第ニ

御座候就而者船中不念ニ而致焼失候ハ奉伺候上何様奉畏  
御船代りも上納可仕義御座候得共此節之義乍恐別段之譯  
炳と奉存候間何卒前件之次第厚御評議被成下出格之御取  
譯を以御船代上納之儀御猶與被仰付被下度奉願上候様修  
理大夫申付置候間此段申上候以上

丑六月十八日

岩本右右衛門

松平修理大夫内

栗本瀬兵衛後稱安藝守曾て箱館ふ在て佛人と相知れるの故を  
以內旨を受け翔鶴丸修補の事を當時横濱港ふ碇泊せる佛  
國軍艦ふ托せん事を彼國の公使ロセスふ謀りし公使云  
軍艦之事ハ擧て其乗組船將の隨意あるう今來合せたるケ

リエル號ハ船將のみあらず其上ふ水師提督シヨウライス  
乗組み居れハ一應提督に相話し然る後命を傳へしめさる  
を得ぞ幸ひ今晚六時提督船將共ふ當館に来る筈あれハ卿  
も勞を厭へされハ同時來會あり面のあたり諸否を決せん  
との事故同夕再び往て提督シヨウライス船將某ふ接し酒  
餘ロセス開口し話前件の事ふ涉る兩人共ふ快く承諾した  
れハ翌日復命したるふ直ふ予ふ翔鶴修理の事を司るへき  
旨ありしうハ予監察官を以て其主任ふ當り難き所以を陳  
し強て請て軍艦奉行木下謹吾と共に協議して事を執る可  
きの旨を得て後横濱ふ歸りトふ佛軍艦より士官ドローリ  
ル蒸氣手エーデ其外職工十餘人を貸し船將も日々來りて  
事を督せしうハ六十餘日ふして漿罐の損所を始として内

部外部共ふ完全一美麗の善艦と成り翌年春謹吾と共に乘て相豆州灣及び八丈島を航したり此行は前年長崎支配向助一又大島火山燒土を檢し横須賀造船所用に供するに足る可きやを試の爲ふして其名とするは翔鶴修理後の試乗下謹吾と共ふ航せり木翔鶴船修復成功の日技手職工傭給等の談ふ及ひたり一ふ提督船將共ふ堅く辭して許さず其云ふ所を軍艦乗組之者ハ技手職工皆各其給分を得て繫留中無事ふ困む者あれハ使用せる所あれハ却て消閑の具を得たるを喜ふの境界ふ在り決して貴政府の意を勞くるを用ひすとあり因て公使ふ話をされハ公使も提督船將の意ふ任をるより外なゝとの事ふ付止を得を小栗上野介と議し此方見計ひふて應酬あるへと決し公使周旋の勞を謝をる爲め時服五領提督へ拵付刀一口船將へ拵付脇差一本士

## 官々小判百枚職工に銀百圓を賜れり

## 千代田形艦製造年月

一キール釘メノ式 文久二戌年五月七日

一進水式 文久三亥年七月二日

一落成 豊慶二寅年五月中旬頃

右進水式ヨリ落成迄凡三ヶ年程經過致候譯ハ兩度ノ上洛并ニ濱五郎元治元年八月十五日和蘭國行被申付同年十月廿八日同國へ向ケ出發慶應二寅年正月廿七日歸朝候ニ付同人留守中機械据付方難出來濱五郎和蘭國ヨリ歸朝後機械据付方致候ニ付進水ヨリ落成迄凡三ヶ年延引候事

一總入費凡ソ金七萬圓弱

此入費總計ハ懽ナルヲ不相分全ク心覺ヘナリ

### 船体計畫

小野友五郎

春山辨藏

機關計畫及ヒ長崎ニ於  
船体帆形改良帆點算出

肥田濱五郎

此艦長拾七間二尺幅二間半六十馬力之螺旋仕掛あり我邦  
人外國人の力ニ頼らずして蒸氣船を新造せる此艦を以て  
權輿とぞ

### 海軍歴史卷之二十三

### 海軍歴史卷之二十四

#### 費額及雜項之上

##### 目錄

諸艦船乘組給料

海軍定金ノ建白

海軍役々俸金調書

養生所一箇年費額預算

海軍定備金

英人傳習ノ費用

諸艦船一箇年費用調書

海軍歴史 卷之二十四 目録

海軍歴史卷之二十四

費額及雜項之上

西暦千八百五十七年  
和蘭國贈與於長崎請取

一觀光

外車木製軍艦  
蒸氣百五十馬力  
長貳拾九間

水夫小頭

三人

同格帆繩

貳人

平水夫

五拾五人

火焚小頭

四人

同格帆繩

貳人

メ七拾六人

一ヶ年給料高

米貳百七拾三石六斗

金貳千拾七兩

壹人二付

水夫小頭一ヶ年金貳拾五兩  
火焚小頭一ヶ年金三拾三兩  
同格帆繩同前

但

平水夫一ヶ年金貳拾五兩  
火焚小頭一ヶ年金三拾三兩  
同格帆繩同前

平火焚一ヶ年金三拾兩  
米者何レモ一日壹升宛  
以下都而之ト同レ

西暦千八百六十三年  
英吉利國より買上於横濱請取

價拾四万五千弗

原名ヤンシ一

一翔鶴

外車木製運送船  
蒸氣三百五十馬力  
長三拾三間餘  
巾四間三尺餘水夫小頭 四人  
平水夫 三拾六人火焚小頭 四人  
平火焚 貳拾六人

メ七拾人

一ヶ年給料高  
米貳百五拾貳石

金千九百三拾貳兩

西暦千八百五十八年八月  
英吉利國より贈與於品海請取

一蟠龍

内車木製軍艦  
蒸氣六十馬力  
長貳拾三間餘  
巾三間三尺五寸水夫小頭 貳人  
同格 壹人

メ三拾九人

一ヶ年給料高  
米百四拾石四斗

金千貳拾六兩

平水夫 大頭 三拾人  
火焚小頭 貳人  
平火焚 四人

メ六拾五人

一ヶ年給料高  
米貳百三拾四石水夫小頭 四人  
火焚小頭 貳拾壹人

金千七百八拾貳兩

西暦千八百六十三年於長崎亞米利加人より松平越前守買上  
價拾貳万五千弗其後政府に買上

一黑龍

内車木製運送船  
蒸氣百馬力  
長貳拾八間三尺水夫小頭 四人  
火焚小頭 貳拾壹人

メ六拾五人

一ヶ年給料高  
米貳百三拾四石

金千七百八拾貳兩

文久元年西都於石川島製造取掛  
元治元子年迄四ヶ年目ニシテ落成

一千代田形 内車木製軍艦 蒸氣三拾七馬力 長拾七間三尺

平水夫 小頭 貳人

平火焚 小頭 貳拾八人

平火焚 小頭 壹人

四人

水夫小頭 貳人

平火焚 小頭 貳拾八人

四人

メ三拾五人

一ヶ年給料高  
米百貳拾六石

金九百拾三兩

西暦千八百五十七年於長崎請取  
和蘭國より買上

價拾万弗

一咸臨

内車木製軍艦  
蒸氣百馬力  
長貳拾六間壹尺九寸  
巾四間壹尺三寸

水夫小頭 三人

同格帆繩 貳人

四人

五拾五人

水夫小頭 三人

同格帆繩 貳人

四人

五拾五人

平火焚 拾貳人

メ七拾六人

一ヶ年給料高  
米貳百七拾三石六斗

金貳千拾七兩

價拾万弗

西暦千八百五十八年於長崎請取  
和蘭國より買上

價拾万弗

一朝陽

内車木製軍艦  
蒸氣百馬力  
長貳拾六間壹尺  
巾四間壹尺五寸

水夫小頭 四人

平水夫 四拾六人

火焚小頭 三人

平火焚 拾四人

メ六拾七人

一ヶ年給料高  
米貳百四拾壹石貳斗

金千七百八拾九兩

西曆千八百六十四年於横濱請取  
亞米利加國より買上

價拾壹万弗

原名ターキヤン

一大江丸　内車木製運送船　長貳拾九間三尺餘  
蒸氣百五十馬力　巾四間餘

水夫小頭　三人  
平水夫　三拾七人  
火焚小頭　三人  
平火焚　拾七人

メ六拾人

一ヶ年給料高  
米貳百拾六石

金千六百貳拾四兩

西曆千八百六十四年於横濱請取  
英吉利國より買上

價拾五万弗

原名シンキ

一順動丸　外車鐵製運送船　長四拾間餘

蒸氣三百六十馬力　巾四間餘

水夫小頭　三人  
平水夫　貳拾七人

火焚小頭　三人  
平火焚　三拾貳人

メ六拾五人

一ヶ年給料高  
米貳百三拾四石

金千八百貳拾四兩

西曆千八百六十三年於横濱請取  
英吉利國より買上

價拾九万五千弗

原名ライモン

一太平丸　外車鐵製運送船　長四拾七間餘  
蒸氣三百五十馬力　巾四間貳尺餘

水夫小頭　三人  
平水夫　三拾七人  
火焚小頭　三人  
平火焚　拾七人

メ八拾人

一ヶ年給料高

米貳百八拾八石

金貳千貳百貳拾四兩

西曆千八百六十四年於箱館請取  
亞米利加國より買上

價四万七千五百弗

一神速丸　内車木製　長貳拾貳間餘  
蒸氣八十馬力　巾貳間半餘

水夫小頭

三人

深水入　舳八尺  
艤九尺

平水夫

貳拾貳人

深水上　舳九尺  
艤七尺三寸

メ三拾五人

一ヶ年給料高

米百貳拾六石

金九百四拾六兩

噸數

貳百五十トン

文久二戌年中亞米利加國に跳  
亞米利加より西曆千八百六十六年第一月横濱に渡來於同所請取

一富士山　内車木製軍艦　長三拾四間壹尺  
蒸氣百八十馬力　巾五間壹尺五寸

水夫小頭

百三十人

火焚小頭

四人

メ百七拾四人

一ヶ年給料高

米六百貳拾六石五斗

金四千五百八拾貳兩

深十五フート

和蘭國に跳  
慶應三卯年五月十九日於横濱請取

一開陽　内車木製軍艦　長四拾間  
蒸氣四百馬力　巾六間半

大砲三拾五挺乘組五百人トス

水夫小頭

貳百九拾五人

火焚小頭 四人  
平火焚 三拾六人

メ三百四拾五人

一ヶ年給料高  
米千貳百四拾貳石

金八千八百八拾七兩

原名ターバンニヨー

一奇捷丸 内車鐵製運送船 長三拾六間餘  
蒸氣百五十馬力 布四間五尺餘

水夫小頭 三人  
平水夫 四拾貳人

火焚小頭 三人  
平火焚 三拾貳人

メ八拾人

一ヶ年給料高  
米貳百八拾八石

金貳千貳百五兩

噸數五百拾七トン

原名ドバンバルトン

一長鯨丸 外車鐵製運送船 長三拾九間五尺  
蒸氣二百五十馬力 布五間五尺餘

水夫小頭 四人  
平水夫 五拾人

火焚小頭 四人  
平火焚 四拾人

メ九拾八人

一ヶ年給料高  
米三百五拾貳石八斗

金貳千七百貳兩

噸數九百九拾六噸

原名イーグル

一回天 外車木製軍艦 長四拾三間  
蒸氣四百馬力 布七間

水夫小頭 七人  
平水夫 九拾三人

火焚小頭 五人  
平火焚 三拾人

メ百三拾五人

一ヶ年給料高  
米四百八拾六石

金四千六百四拾兩

一龍翔

内車鐵製  
蒸氣三十五馬力

長九十三フート  
巾十五フート十五分ノ六

水夫小頭  
平水夫

壹人  
拾人

火焚小頭  
平火焚

壹人  
六人

メ拾八人

一ヶ年給料高  
米六拾四石八斗

金四百九拾三兩

一飛燕

噸數六十六トン

一飛燕

水夫小頭  
楫取

壹人  
壹人

平水夫

拾人

メ拾貳人

一ヶ年給料高  
米四拾石

金百八拾兩

外

小笠原大膳大夫所持船ヲ買上

一飛龍丸

蒸氣

西洋製買上

一鵬翔丸

帆前

同

## 一千秋丸 帆前

同 同

## 一美賀保丸

右四艘ハ船名心覺迄ニテ長巾其外共都而手扣等ニ無御座候

原名、フインセン、シャンハイ、ニテ製造  
慶應元丑年崎陽於テ買入元長崎奉行取扱其後海軍方管轄

## 一行速丸

積高ラット、コットルトイグ  
炭庫六百石

十五万斤入

走力毎一時九里

炭費一晝夜三万斤

煙突二本

火夫二十四人

十六人

合四十名

水甲板巾四間半尺内

火夫

## 右行速丸明治三庚午年六月

## 朝廷へ献納ノ事

卯十月廿日建白

## 海軍御定金之儀取調申上候書付

海軍奉行並  
軍艦奉行頭並

一金九拾貳万八百兩餘

海軍御擴張追々御規律相立候ニ付御船々を始海軍役々俸  
金并養生所其餘とも海局御用途之義都而御一新之見込を  
以總括御定金一ヶ年凡目當高取調候處書面金高ニ相成申  
候尤御船々蒸氣罐凡五ヶ年目ニ而仕替等廉立候金高之分  
復凡見込之金高并海軍御備金等之内ニ而差繰候得者大抵  
書面御定金之内を以取計出來候積乍併一廉ニ而莫大御入

用相嵩候義ハ全く御定金外之義ニ付臨時別段御出方申上  
候積御座候依之別冊相添此段申上候以上

但御船々大小砲遣ひ彈藥之義者御鐵砲玉藥奉行器械製  
造方等より請取候積三付右之入用者本文御定金之内  
組込不申候事

海軍御定金

一金九拾貳万八百兩餘但内譯廉、別冊之通

右之通御座候以上

卯十月

海軍役々俸金調書

一金拾貳万九千七百拾壹兩永百壹文壹分

内

海軍奉行並

一金七千五百兩

但壹人金貳千五百兩宛

軍艦奉行

一金六千兩

但同斷金貳千兩宛

同頭

一金千五百兩

同頭並

一金三千貳百兩

四人

但同斷金八百兩宛

軍艦役

一御足高千百貳拾五俵  
一役扶持四拾五人扶持

三人

一御足高五百壹俵壹斗五升  
一役扶持百三拾五人扶持

九人

一御足高貳百六拾俵  
一役扶持拾三人扶持

同並勤方人

一御足高六百拾三俵壹斗五升  
一役扶持百四拾人扶持

同並勤方一等

一御手當扶持七拾人扶持  
一役扶持七拾人扶持

同並勤方一等

一御手當扶持七拾人扶持  
一役扶持七拾人扶持

同並勤方一等

一出役扶持九拾人扶持  
一御手當金九拾兩

九人

一御手當扶持九拾人扶持  
一役扶持高貳百拾六俵

軍艦役並勤方二等

一御手當扶持六拾人扶持  
一役扶持百三拾三人扶持

六人

一出役扶持九拾人扶持  
一御手當金百三拾兩

同並勤方二等勤方

一御手當扶持六拾人扶持  
一役扶持四拾貳人扶持

六人

一御手當貳拾人扶持  
一役扶持六拾人扶持

同並勤方三等勤方

一御手當貳拾人扶持  
一役扶持拾人扶持

人

